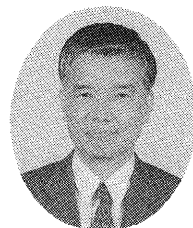


巻 頭 言**国 際 貢 献 と 学 会 活 動**

八 賀 明†



最近、国際貢献という言葉をよく耳にする。PKO に関する議論に代表されるように、政治の世界では何かにつけて国際貢献の話題にことかかない。国際収支の黒字を背景とした経済大国として、わが国が国際貢献を求められる分野はますます広がるであろう。学会活動も例外ではあるまい。それでは学会活動として我々はどのような貢献ができるであろうか。あるいはどのような貢献を期待されているのであろうか。学会が研究者や技術者による研究成果の発表・意見や情報の交換の場であることから考えてみたい。

貢献の第一は発表された学術および技術情報を海外に送出することであろう。ここでの大きな障害は言語の問題である。国際会議への投稿など英文による発表も活発になってはいるが、情報処理の分野においても、学術・技術情報に関する国際収支は貿易黒字とは反対に入超で、大幅な赤字となっているのが実情であろう。情報処理学会の欧文誌と論文誌の統合は、学会の財政面などいろいろな理由があつてのことではあるが、わが国からの情報発信という面に限って言えば、誠に残念なことであつた。情報処理学会の論文誌が和文と英文の二本立てになり、会員がいずれかを自由に選択できるように、機械翻訳システムの発展と学会の財政基盤の強化が待ち望まれる。

外国学会との共催による国際会議の開催を第二の貢献と考えたい。国内大会よりも国際大会を重視したいことは学術の世界もスポーツ界と変わるところはないと思われる。国際会議といえば IFIP があるが、欧州においてはともかく、日米での IFIP 活動は最近低調と言われている。これに対し米国流のワークショップ形式の国際会議は、発表と質疑に十分な時間を取ったり、レセプション

の場を利用して国際交流の実をあげるなど小規模国際会議のメリットを生かしているようにみえる。外国学会と国際会議を共催する学会の研究会も増えてきたが、IFIP の TC や IEEE-CS との国際会議の共催など一層努力することが望まれる。国際会議を開催する場合、いつも経費問題に悩まされる。会場にホテルなどを利用すると、参加者の登録費だけでは経費をまかないきれず、企業の協力を仰ぐ場合が少なくない。また、外国からの参加者にとって宿泊費も高負担となっている。現在国立大学の研究設備更新計画が、公共投資のテーマとして検討されている。この機会を利用し、多数の学会が共同して、低廉な経費で利用できる国際会議と宿泊施設の建設を国に働きかけてみてはどうであろうか。

外国からの留学生支援も国際貢献の一つであろう。明治以来の百年間、わが国の留学生がさまざまな形で欧米の人々から援助を受けたことを忘れてはなるまい。留学生支援にもいろいろな方法がある。学会にとっては金銭面での支援にはおのずと限界がある。最も大切なことは留学生をそれぞれの専門家社会の仲間に迎えることであろう。例えば留学生会員という会員種別を作り、無料で会員に迎えるというのはどうであろうか。会員ひとりひとりが、興味と専門を共にする仲間として、留学生会員を励まし応援することを期待したい。情報処理学会ならば、E-mail の掲示板などを利用してボランティア活動と呼びかけることは容易である。学会にも会員から申し出のあった留学生支援活動を登録しておくことが可能であろう。このようなネットワークが広がれば、留学生のさまざまな悩みに応えることができるようになり、将来に向け真の国際貢献が果たせると考えられる。

† 本会理事 (財)鉄道総合技術研究所

(平成5年8月5日)